

高齢女性を骨粗鬆症から守る力を育む — タイ発・ホリスティック看護の視点 —

Empowering Older Women Against Osteoporosis: A Holistic Nursing Perspective from Thailand



演者

Asst. Prof. Dr. Yupawan Thongtanunam

ユパワン・トンタヌナム 准教授

ブラパー大学 看護学部 老年看護学講座（タイ王国）

Gerontological Nursing Department, Faculty of Nursing,
Burapha University, Thailand

タイの地域在住高齢者における現状 — いずれも女性に不均衡に多い

29.7%

骨粗鬆症の有病率

18.1%

サルコペニアの有病率

38.5%

転倒高リスク者の割合

抄録

超高齢社会タイにおける骨粗鬆症

骨粗鬆症は骨密度（BMD）の低下と骨微細構造の劣化を特徴とする全身性の代謝性骨疾患であり、骨強度の低下を通じて転倒・骨折リスクを高める。日本と同様の軌跡をたどり高齢社会となったタイでは、地域在住高齢者で骨粗鬆症・サルコペニア・転倒リスクが増加している。

骨と認知機能をつなぐ経路

近年のエビデンスは、骨粗鬆症がホルモン・炎症・行動という共通の経路を介して認知機能低下・認知症と密接に関連することを示す。脆弱性骨折に認知症を併存する場合、死亡率は著しく上昇する。この関連の認識は高齢女性の看護アセスメントとマネジメントに不可欠である。

ヘルスリテラシーという決定因子

薬物療法と同等に重要な因子がヘルスリテラシーである。検診の受診行動、服薬アドヒアランス、転倒予防行動の継続的な実践に影響し、高齢女性の骨粗鬆症アウトカムを左右する中核的な決定因子として位置づけられる。

ケアの受け手から、健康の主体へ

本講演では、タイの視点から、看護師がいかにして高齢女性を「受動的なケアの受け手」から「自らの長期的健康を形づくる能動的なパートナー」へ転換させ得るかを論じる。最終目的は、アジアの看護が女性の骨粗鬆症ケアの未来とともに描き、高齢女性の骨の健康・認知の活力・尊厳を守るための地域的対話を醸成することにある。

Keywords

骨粗鬆症 / 高齢女性 / ホリスティック看護 / ヘルスリテラシー / 認知機能障害

osteoporosis; older women; holistic nursing; health literacy; cognitive impairment